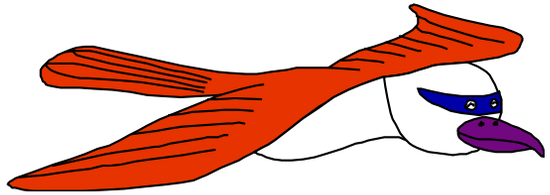
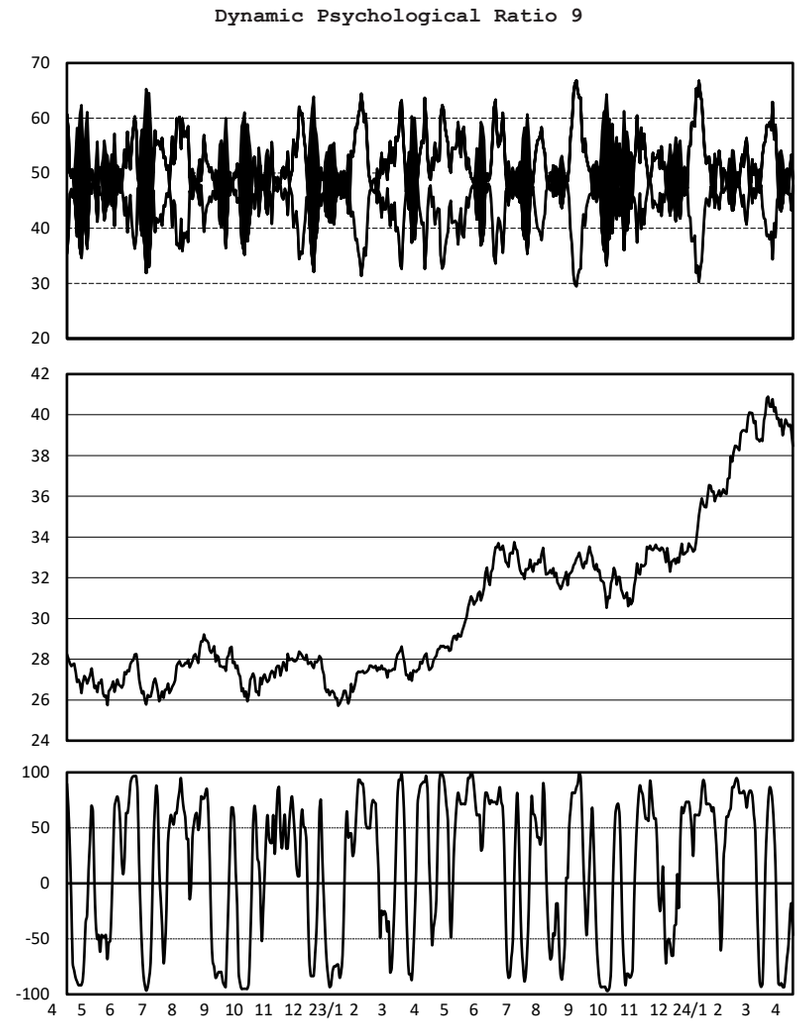
発行日：　令和６年　４月１７日
発行者：今村証券株式会社
金融商品取引業者 北陸財務局長（金商）第３号
日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会加入
制作責任者：営業推進部 調査課

情報シャトル特急便

第７５０号





上図は騰落銘柄数をベースとした独自のもので、黒の幅が拡大→買い場、白の幅が拡大→売り場
中図は日経平均株価
下図はRCI（9日ベース）で、　-80%ラインを上につき抜け→買い場
80%ラインを下につき抜け→売り場

大 所 高 所

13 日にイランがイスラエルへ攻撃を行い、対立が激化し中東情勢は緊迫化。報復による対立の長期化や原油高への懸念から世界市場は一気にリスクオフとなった。日経平均株価も大幅に下落。1 ドル＝ 154 円台に入り、日銀の為替介入イベントの有無も投資家心理を圧迫しており動きづらく、しばらくは様子見の動きが続きそうだが、安値は丁寧に拾いたいところだ。

さて、AI 関連銘柄が相場に大きな影響を与えるまでになってきた。1993 年に発表されたヴァーナー・ヴィンジの論文では 2020 年代にもシンギュラリティを迎えると書かれ、人間の知性を超える AI の登場は世の中を一変させるという。よく引用されるディストピア的な論文の後半に、実は対処法として人間に優しいシンギュラリティの迎え方が書いてある。「IA」（Intelligence Amplification） 知能増幅により人間自身が人間の知性を超える方法だ。デバイスの進化と情報取得量（帯域）の増加により、人間の知能を増幅させる。PC マウスの発明やデータ通信速度の上昇、スマートフォン、音声での PC 操作、生体デバイス、アップルビジョンプロでは VR に加え、視線がマウス代わりに利用できるなど、人間の意思決定に必要な情報は操作性の向上により理解判断が容易になり、通信環境の向上による取得量、種類の広がりから正確性が向上している。人間の知性はゆるやかに増幅されて来ておりヴィンジの対処法「IA」進化の重要性は増してきている。

（nil admirari）

ただ一筋

株式市場はイスラエル、イランの中東情勢への懸念が強まっていることをきっかけに、しばらく軟調な展開が予想される。原油価格の更なる上昇はインフレ圧力を強めることになり、FRBによる利下げ開始が遅れるとの懸念も高まる。しかし日本株は企業の中期経営計画や株主還元策を好感しており、目先は調整含みで推移するとみられるが、企業の儲けを株式市場に還元する流れは定着し、中長期の上昇トレンドに変化はなく押し目買いで臨みたい。

4月相場入りしてからの株式市場は、米国の強い経済指標を背景に、インフレとFRBの利下げ開始時期の遅れが懸念され軟調な展開だった。国内は主力小売企業の決算発表が一巡し材料難となるが、今週から日本より一足早く米国の決算発表が本格化するため、経済指標だけではなく企業業績にも注目が集まる。今週はモルガン・スタンレーやゴールドマン・サックスなどの大手金融機関をはじめ、ジョンソン＆ジョンソンがすでに決算発表を終え、本日以降もP＆G、テック系のネットフリックスなど発表が相次ぐ。特に注目は18日に発表予定のTSMCだ。米国でエヌビディアやアームなどが大幅高だった割には物足りない動きで、今一つ盛り上がりに欠ける半導体株だったが、TSMCの決算を受けてからの動向に注目したい。また、円安が進行する中、政府・日銀の為替介入にも注目だ。　（塞翁が馬）

当 た り 屋 見 参

東宝（9602）の2024年2月期営業利益は過去最高の592億円となった。中核である映画事業で、「劇場版 SPY × FAMILY CODE：White」「ゴジラ-1.0」「キングダム 運命の炎」「劇場版ハイキュー‼ ゴミ捨て場の決戦」「名探偵コナン 黒鉄の魚影」「ミステリと言う勿れ」「ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー」という幅広い分野において好調な動員数を獲得し快進撃を続けている。その鍵は『体験』にあるのではないかと考える。

近年、サブスクリプションビジネスの台頭により、映画事業は規模の縮小を余儀なくされるという意見も多かった。実際レンタルビデオ店などは売上縮小により事業の転換を迫られている。スマートフォンがあれば『欲しい情報がすぐに手に入る時代』になってしまった。一方でそんな時代だからこそわざわざ足を運んで会話やスマホの使用が禁止される『制限された空間』の付加価値が高まっているのではないだろうか。

また3月1日、「ドラゴンボール」「Dr. スランプ」などの作品で知られる漫画家の鳥山明さんが急性硬膜下血腫のため死去した。世界的に鳥山さんの死を悼む声が数多くあり、日本のアニメーションや漫画が世界に与える影響の偉大さを実感する方も多かっただろう。「ゴジラ」シリーズなどを見てもわかるように、日本映画界の巨匠が今世界をにらんでいる。世界での収益拡大を背景に東宝のブランド力はさらに高まっていくのではないだろうか。

（10秒で考える）

老 練 の 視 座

最近、地震について考える時間が多くなった。もし、この瞬間に大地震が来たらどうなるのかと日々の思考の中に常にある感じだ。日本だけでなく、地震が少ないエリアの速報を目にするたび、今後の大地震は避けられないものだということが理解できる。できることからということで、食料等を備蓄しながら、常に新しいものと入れ替える「ローリングストック」を始めた。ハザードマップを確認し、家族間で情報を共有することも徹底した。少しでも、対応ができるように。

仕事柄、関連銘柄を考えるのだが、地震の規模がどの程度なのか、どのエリアで起きたのかによって当然株価への反応が変わってくる。そして、時間差で値上がりしてくるパターンも考えられる。判断が難しいところだが、フェーズで区切って考えるのであれば、地盤改良・海上土木の不動テトラ（1813）を投機的な短期狙いで注目したい。今後の防災意識の低下はないと思うので、長期目線では防災機器大手の能美防災（6744）に注目だ。関連銘柄の緊急出動がないことを祈るばかりだが、お守りの意味で挙げさせていただく。

（青面）

きらきら星

世界の数多い問題の中のひとつである「食糧問題」。

日本の人口は2100年に約6300万人になり、現在からほぼ半減すると、厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所が試算している。一方で世界では人口は増え続け、特にインドやアフリカ、アジアの新興国での増加が目立つ。人口が増えることにより更に食糧不足が深刻化するのだが、農業労働人口は不足している。日本は少子高齢化による農家の人手不足が課題だ。アフリカなど新興国では土壌が悪く水を適切な場所にも運べる技術もない。アフリカの子供達は学校に行かず農業労働させられている現実もある。

そこで注目したいのはクボタ（6326）。創業1890年、予想PER12.7倍（4月16日終値2,450.5円/2024年12月期会社予想EPS192.34円）、時価総額2.8兆円。農業機械、鋳鉄管ともに国内トップ！世界でも120カ国以上に展開する。効率的な農作業をするには、土地を耕す機械、水を適切な場所に運ぶ灌漑（かんがい）設備が必要になる。鋳鉄管は水道管のため震災後の復旧にも必要になってくる。

社会的に役立ち人類を救う企業がクボタなのだ。

（ヴィクト利ア）

デ ジ タ ル の 俯 瞰

アメリカに「sugar high」という俗語がある。日本語でいえば「徹夜明けの栄養ドリンク」といったようなもので、甘いものを食べることで訪れる束の間の興奮状態のことをいう。

何の話かといえば中国の話なのだが、現在の中国にはいいイメージはないだろう。だが、5日に発表された安川電機（6506）の決算を思い出してほしい。ここで安川電機は、中国市場は「底打ち」したと表現したのだった（中国におけるモーションコントロール事業は、12月以降プラスに転じたという）。

現在中国は、不動産を見切り、2024年通年での5%成長実現のために、製造業に軸足を移している。1～3月期の経済指標を見ても、不動産は壊滅的だが、製造業は6.1%拡大した。この動きは1年半ほど前から始まっており、EV、電池、太陽光、半導体などへの補助金、融資の伸びには著しいものがある。

こうした動きによって、中国の製造業は「一時的に」蘇るだろう。過剰生産による価格下落と、コモディティ価格上昇によるインフレという副作用を世界中にまき散らしながら、成長率をアピールするだろう。冒頭の「sugar high」とは、まさにこうした状況を指す。長期的な成長にはつながらないが、チョコレートを食べて回復を錯覚する、中国はそうした一時しのぎのフェーズに入ったのだ。

これだけ米10年債利回りが高いのであれば、どっちみち大きな夢は見られない。金利低下局面までは、効果が切れればだるさが身体を襲うことを認識したうえで、「sugar high」を、つまりはファナック（6954）をはじめとする中国関連銘柄の短期リバウンドを狙いたい。（パプリカ）

アナリストによる北陸企業便り

（近藤浩之）

＜5889　Japan Eyewear Holdings＞

昨年11月、東証スタンダード市場に上場。「金子眼鏡」と2021年に経営統合した「フォーナインズ」のブランドを持つ。眼鏡世界三大産地の1つ「福井・鯖江」の熟練した職人技により、自社で企画・デザインする眼鏡を製造し、国内94店舗、海外4店舗（2024年1月末）の直営店を中心に販売する。

成長戦略にはまず新規出店を挙げており、国内では年間数店舗の純増を継続し、海外では当面、中国で年間数店舗を出店していく。グループシナジーに関しては、フォーナインズの直営店拡大に向けて、金子眼鏡の出店ノウハウを活かす。フォーナインズ販売商品の製造では、今期（2025年1月期）完成予定の新工場を含めた金子眼鏡の工場を活用して増産に対応する。

今期業績の会社予想は1割の増収、16%の営業増益だ。①国内で5店舗以上の純増、②中国で1店舗以上の出店、③インバウンド向け売上高の増加、④価格改定、⑤厳格なコストコントロールを見込む。今村証券による予想は14%の増収、24%の営業増益とし、販売好調を背景に会社予想から上振れるとみる。また、利益率の高さにも注目したい。売上収益営業利益率は今期の会社予想が28.7%、今村証券予想が29.7%だ。高級感のあるブランドイメージを作り上げる取り組みが功を奏している。鯖江生産の高機能・高単価眼鏡を同じ事業規模で展開する競合がおらず、価格決定権を有している点も大きい。投資判断はＯＵＴＰＥＲＦＯＲＭとする。

罫 線 中 僧

6849　日本光電

月足

週足

出所：ブルームバーグ

脳波計、心電計、生体情報モニター、AED など医療電子機器専門メーカーで、国内はもちろん米国、欧州、アジアと世界中を網羅し活躍している企業です。株主構成では外国人比率が 40%を超え、自己資本比率が 8 割近く、キャッシュリッチ銘柄でもあります。

株価は本年 1 月に約 4 年ぶりに史上最高値を更新、4,783 円まで上昇しました。その後 4 月 5 日の 3,810 円まで調整を余儀なくされました。現在は 4,000 円台を固める動きとなっており、先週末の終値 4,156 円（+136 円）を示現し調整完了を確認。まずは週足窓埋めである 4,466 円を目標に、その後は中勢上場来高値にトライすると思われます。

（0828）

＊情報シャトル特急便は、投資家の参考となる情報提供を目的としておりますが、投資にあたってはご自身の判断でなされるようお願いします。

国内株式等の売買取引には、約定金額に対して最大1.201750%（税込）(1.201750%に相当する金額が2,612円未満の場合は2,612円（税込））の委託手数料をご負担いただきます。株式は、株価の変動により損失が生じるおそれがあります。

非上場債券を当社が相手方となりお買い付けいただく場合は、購入対価のみお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動などにより価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。

投資信託にご投資いただくお客さまには、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費等をご負担いただきます。投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資1単位当りの価値が変動します。したがって、お客さまのご投資された金額を下回ることもあります。

外国株式・外国債券等は、為替相場の変動などにより損失が生じるおそれがあります。

商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、その商品等の上場有価証券等書面、契約締結前交付書面やお客様向け資料をよくお読みください。